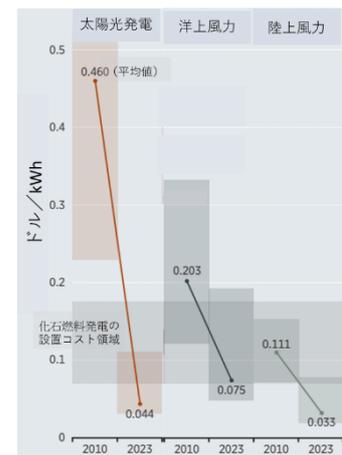


低コスト化が進む再エネと電力貯蔵の必要性

◆IRENE、再エネは既にコスト競争力を獲得したと発表

2024年9月、国連総会中に開催された「グローバル再生可能エネルギーサミット」でIRENA(国際再生可能エネルギー機関)は、世界の再エネ施設の23年の新設は合計473GWで、新設の8割で設備コストが化石燃料発電より安価になったとする『2023年の再エネ発電コスト』報告書を発表した。対前年比コストは太陽光発電で12%減、洋上風力で7%減、陸上風力で3%減となり、10年から23年の間で太陽光発電、陸上風力は化石燃料発電コストを下回り、洋上風力も競争力のある電力源になってきたことを示した。

図1 世界の再エネの平均設置コスト



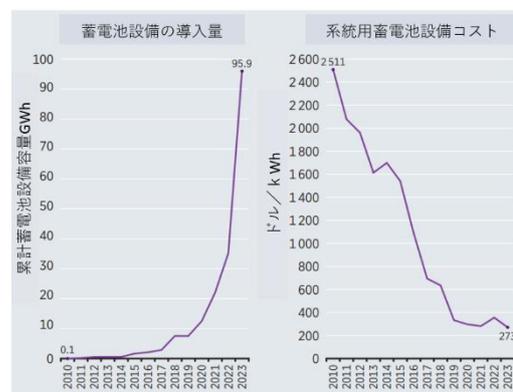
出所:『2023年の再エネ発電コスト』IRENA,2024.9

◆再エネ投資拡大は蓄電池とともに進められる必要がある

“2030年までに再エネの容量3倍”というCOP28(23年ドバイ)合意について、IRENAは30年に世界の再エネ設備を11.2TW(年平均1TWを追加)にしなければならないとしている。このため、蓄電池の拡大が同時に必要になる。

『2023年の再エネ発電コスト』報告書では蓄電池の章を設け説明、23年に蓄電池の設備コストは規模の拡大、材料効率向上などによって273ドル/kWhに下がったとした。世界の蓄電池設備の導入量は23年に95.9GWhで、中国46.5GWh、米国22GWhを占め、系統電力用が23年は蓄電池総容量の67%と主用途になった。なお、住宅用蓄電池ではドイツが23年に急増、住宅用で総量5.6GWhの蓄電池容量を有し、市場を牽引する。

図2 2023年までの蓄電池導入量と設備コストの変遷



出所:『2023年の再エネ発電コスト』6章、IRENA, 2024.9

また、BloombergNEFも再エネや蓄電池を調査している。23年上期の設備コストは太陽光発電0.046ドル/kWh、洋上風力0.042ドル/kWh、洋上風力0.074ドル/kWh、Liイオン蓄電池は304ドル/kWhに下がったと報告している。 【新井喜博】